

歴史を学ぶ講座

新・八幡の歴史 60回目

8月に続き9月25日にも、出口修さんは橋本の渡しの話をして下さいました。江戸時代の後期の1797年生まれの石清水八幡宮宮大工の長濱尚次が1848年に著した「男山考古録」に「燈油渡」として「山崎離宮八幡宮社人より我岩清水八幡宮へ燈油奉獻の事者、貞観の昔(平安時代初期)より連綿せる事にて、~今に於ても絶る事なく、又淀川筋船渡し内にてても、当渡しは殊更に往古よりの事ない~」と。山崎橋が作られても流されてしまった後はずっとこの渡しが昭和37年まで続きました。幕府や朝廷の保護のもと、畿内から全国も視野に原料の仕入れ、製油販売に独占的な特権を与えられた山崎の油神人。八幡宮への燈油運搬は石清水神人として内殿の燈油を納入する責務を。荏胡麻油は食用の他、防水のために傘や提灯に使われました。男山考古録があったから今学べるんですね。

- ① 日時 2024年10月17日(木)13時30分~
- ② 講師 出口修さん
- ③ 参加費 100円



上(橋本渡し口川向こうが男山)

下左(荏胡麻 ネットより)

下右(橋本渡し場道標 2019年4月歴史を訪ねてより)



八幡まるごと館/八幡市男山松里12-20 (TEL&FAX) 07 5-983-3664
(E-MAIL) yawata@marugotokan.net 作られたホームページは <http://marugotokan.net/> 又は、八幡まるごと館で検索して下さい



八幡まるごと館は街行く人のだれもが自由に立ち寄れる“地域サロン”です。休館日は毎週火曜日全日と土・日午後です。